日本のプロコーチ宣言第1号　榎本日出夫（日立戸塚コーチ）

私のバスケット狂書

その（5）

まず"敵を知ること"に着手

一方で選手の体調など細かく分析

ベストの状態で試合へ

さて、入れ替え戦に際して何をしようかと思い悩んだあげくまず敵を知ることが勝利の近道ではないかと考えました。それで対戦しそうな指導者の学歴を調べ、学生時代に何をやっていたか、大学はどこか、プレイヤーだったら一線で活躍したか、どうか、活躍はしなかったけれどもどういう仕事をチームの中やバスケット部でしたかを細かく調べたり、その時の指導者の名前や実績、指導の仕方などを調べ少しでも多く、対戦相手の指導者を知ろうと努力しました。その時はたまたま教育大出身の指導者が多かったために、バスケット関係の本では、教育大出身の人の著書を主に自分なりに要点をまとめたノートをつくり、この時代に教った人はどういう傾向にあるとか、こういう指導法を取るにちがいないとか、いろいろ分析をしたわけです。そのノートは、今でも大事に取ってありますが、大学ノート二十冊はあります。

そういった反面、それに対抗する練習法や、打消す力強さやぶつ通しで練習をしながら気力の仕方などを創りあげていく努力もしていきました。

そのなかでも、特にプレイヤーにいい続けていたことは、入れ替え戦はただのゲームではなく、企業と企業、人と人との戦いだということです。それと、六日間きついゲームをするということ自体大変だが、それよりも、もっと大変なことは、六日間緊張をしながら集中力を失わず、身心共に最高のコンディションをどうつくり、どう保っていくかということです。

そのための練習もしました。

それは六日間、一番悪い時期を選んで、明け方四時迄、六時間の集中を計ったり、生理を調べて前後での集中力の相違や体力の消耗度などもデーターにしました。

女の子ですから生理は必ず周期におとずれてくるわけですが、おとずれ方がいろいろあって、般中がきついとか、三日間に一度位はすごくきつくなるとか、いろいろタイプのあることがこのデーターからわかり、それではゲームのある時はすべてできるだけ一番良い状態にできないかと考えた訳です。

このデーターをもとに入れ替え戦をたどっていくと、主力のプレイヤーで三人が最悪の状態になりそうな計算になってしまうことがわかりました。これでは一年間、一生懸命やってきたことが、最低のコンディションでやるのと同じですから、こんなバカなことはないハズです。

だけで、どう計算しても、そうなるのですからどれほど困りました。いろいろ女の子の体の本などを読んでいるうちに、生理は感染するというような説明が目にうつりました。ワラをもつかむ気持で、とにかくゲームまでに終らせておけば良いのだから、ひと月に二日でも早くなれば、あと六ケ月あるのだからどうにか、なるのではと淡い希望をいだきながら、なりそうな子と同室にしてみたり、生理はうつるんだな、などと考えることに言ってみたり、プレイヤーの意識の中に少しでも入って、うまくのってくれないかなあなどと、いろいろと努力してみました。

その結果、偶然かどうか、私は専門家ではないのでわかりませんが、ゲームの二日前にすべてのプレイヤーがベストの状態になったことだけは確かです。

しかしマイクロバスもオンボロなので、カッコよくのりこむというわけにもいかず、東名を走っている時に、富士川のあたりから調子がおかしくなり、あげくのはてに、マフラーのパイプが床に接触しているあたりから木の床を前敷してしまい、ついには直径20糎にもなる大きな穴をこしらえる程の火災になったり、それを消すのに、全員バスの外にとび出して、きたない話しですが、水もないのでオシッコで消したり、それは大騒動になってしまいました。

今思えば楽しい想い出として私もプレーヤーも語れるようになりましたが、煙や、においのために、一時はどうなることかと完全に気も動転してしまいました。

まあ、いろいろ旅の途中でもありましたが、とにかく宿について、ミーティングを終り、これから長い一年間にも匹敵する六日間がはじまろうとしているのだぞ、と自分に云い聞かせながら床についたのが午前四時を過ぎていました。

〈次号に続く〉

榎本日出夫

武蔵中学（東京）、武蔵高校（同）、武蔵大学（同）をそれぞれ卒業。現在、女子実業団チームの日立戸塚コーチ。昭和十六年七月七日生まれ。

〈現住所〉横浜市戸塚区舞岡町一二三―四―六　電話〇四五（八二二）二七〇九番。

〈前号までのあらすじ〉

十年前の三月のある夜、杉野短大のコーチ依頼の電話を受けて引き受けたが、いま思えば、この電話が私の人生を変えた。その後、先輩や恩師のすすめもあり日立戸塚のコーチをやることになり、この時、どうせやるならと「プロコーチ」の看板をあげバスケットで飯を食う決心を固めた。

日立戸塚をみるようになり、練習試合に遠い所へ行くため往復に時間がかかり、選手にも大きな負担のため考えていた所、マイクロバスがふと目についた。苦労に苦労を重ねて手に入れた時、思わず涙を出してしまったものだった。

このマイクロバスをフルに活用して合宿や遠征を重ねたが、そのうち、二月の入替戦が近づいてきた。

六日間戦争（入替戦）を前に高ぶる気持

BASKET BALL IS MY LIFE